

# 食料支援開始前に長蛇の列

正月休みが明け社会が徐々に動き出した7日、新型コロナウイルスに関連して住まいを失ったり収入が減ったりした人々を支援する取り組みが東京都庁前でありました。主催は「新宿ごはんプロジェクト」と認定NPO法人「自立生活サポートセンター・もやい」Pp。

食料品配布を求める人の列は開始1時間前より100人超。男性が多く並ぶ中、子ども連れ女性の姿も目立ちます。619人が食料を受け取りました。

## カツカツの生活

「肉や魚を食べるのには」と



東京都庁前（もやい提供）

# 「肉・魚は2週に1回」

す。

「買物に行く」と物価高を実感するけど、食料の回数を減らすわけにはいかない。最近のある日のメニューは、納豆ご飯に冷凍ロケツ。別の日は野菜と油揚げのうどんでした。「親子は『少々だから大丈夫』と言っけ、空腹が残っている気がする」と声を落とします。

「元巨から3日間、奥家に帰ったけど親も年金暮らし。肉や魚はあまり食べなかつた」

発達障害のある女性は整理のアルバイト3つを掛け持っています。「本当は障害者雇用枠のフルタイムで働きたい」と望んでいますが、時給が低いため諦めたといっています。

「子どもがいて、自分の障害があっても普通に暮らせばだろよ」と周囲のプレッシャー。受け取った食料品の中身を確認しながら少し笑顔を見せました。

## 暖房は朝2時間

この日の最低気温は0度。日差しはあっても日陰に入るとコートを着ていても寒さを感じます。

杉並区に住む女性(70)

は、車田政権が施行した車庫増大を「もったいない」。お金持ちの国民に家



司法書士に裁判に関する相談をする女性27日、東京都新宿区

わさなび」と批判しました。

た。女性は、生活のすべてを節約しているといっています。

「リウマチ関節の治療に、医師の診察を2カ月に1度受けています。医療費も高いです。スーパーの手ラシを見て、割引などの安い食材を買いますし、スマホ代は月800円。電気代は、11月3千円ほど。今現在も暖房は朝2時間だけ、夜9時には布団に入ります」と、生活の工夫を語りました。

「支援の相談が防げるのは、政府が一番困るに違いありません。一番苦しんでいる人たちへの政策を打ち、命を奪うことを最優先にする政治を行ってほしい」

「もやい」理事長の大西さんによると、昨年11月末に食料品配布に集まった人は過去最多でし

「緊急事態を感じる」

「もやい」理事長の大西さんによると、昨年11月末に食料品配布に集まった人は過去最多でし

「緊急事態を感じる」

「もやい」理事長の大西さんによると、昨年11月末に食料品配布に集まった人は過去最多でし

「緊急事態を感じる」

「もやい」理事長の大西さんによると、昨年11月末に食料品配布に集まった人は過去最多でし